

(別紙)

令和4年度花き研究シンポジウム 開催要領
「花き育種の現状と課題、将来展望および販売・普及戦略」

1. 趣旨

近年、カーネーション、キク、バラなどの主要な花きを含む切り花や球根の輸入が増加するとともに、国内生産者の後継者不足等の要因もあり、花き生産基盤のせい弱化が進行している。一方で、我が国の花き育種能力は高く、特にトルコギキョウ、ヒマワリ、パンジー・ビオラ、ペチュニア、ストック、リンドウなどの品質の高さは国際的にも評価され、一部の品目では市場占有率も高いことが知られている。我が国の花き育種は民間種苗会社とともに公的試験研究機関や個人育種家も担っており、育種基盤の構築については主に大学、農研機構等で実施している。今後、国産花きの市場シェア奪還、輸出の促進、国内生産基盤の安定のためには、病害抵抗性や良日持ち性など新たな形質を付与する花き育種をオールジャパン体制で加速する必要がある。本シンポジウムでは、最新の花き育種に関する情報を共有し、今後の課題と品種育成の方向性、販売・普及戦略および将来展望を議論する。

2. 主催

農研機構 野菜花き研究部門

3. 開催日時

令和4年11月9日(水) 13:00～10日(木) 12:00
(受付: 11月9日(水) 12:15～)

4. 開催場所

つくば国際会議場(エポカルつくば) 3階 中ホール 300
(茨城県つくば市竹園 2-20-3)

(注) 新型コロナウイルス感染状況により、オンライン開催に変更となります場合は、申込時に登録いただくメールアドレス宛、あらかじめまして、参加の可否等にかかる確認メールを配信させていただきます。

5. 問い合わせ先

(事務局)

E-mail: kakikensympo@ml.affrc.go.jp

<研究関係について>

野菜花き研究部門 野菜花き品種育成研究領域 施設野菜花き育種グループ
小野崎 隆

<参加申し込みについて>

野菜花き研究部門 研究推進部研究推進室 花き連携調整役
仁木 智哉

(プログラムは裏面)

6. プログラム

1日目 (11月9日 (水))

13:00~13:05 開会挨拶

司会：農研機構 小野崎 隆
農研機構野菜花き研究部門 所長 松元 哲

基調講演

13:05~13:55 花き育種の現状と今後の展望

千葉大学大学院園芸学研究院 教授 三吉 一光

民間種苗会社及び生産者育種の現状

13:55~14:25 民間花き種苗会社における品種開発の現状と販売戦略

(株) サカタのタネ 小関 敦

14:25~15:05 ストック新品種の開発, 高品質種子の供給とその普及戦略

(株) クロカワストック 黒川 幹

(休憩 15分)

15:20~16:00 花きの新品種開発を活かした生産者ブランディング

ナラティブフラワーズ 松原 紀嘉

海外生産、知財輸出の事例

16:00~16:40 リンドウの知財輸出とアフリカ・ルワンダにおける商用生産について

(株) R-GATE 八幡平 (元八幡平市花き研究開発センター)

日影 孝志

16:40~17:00 総合討論

2日目 (11月10日 (木))

司会：農研機構 間 竜太郎

都道府県の育種研究

9:00~9:30 鹿児島県におけるテッポウユリ, キクの育種とその普及戦略

鹿児島県農業開発総合センター 今給黎 征郎

9:30~10:00 官民一体で進める島根県オリジナルアジサイ‘万華鏡’の戦略

島根県農業技術センター 加古 哲也

10:00~10:30 萎凋細菌病抵抗性カーネーション‘ももかれん’, ‘ひめかれん’の開発とその普及戦略

長崎県農林技術開発センター 鍵野 優子

(休憩 10分)

農研機構の育種研究

10:40~11:10 キクの白さび病抵抗性を選抜できるDNAマーカーの開発

農研機構野菜花き研究部門 住友 克彦

11:10~11:40 日持ち性に優れるダリア新品種の開発とその普及戦略

農研機構野菜花き研究部門 小野崎 隆

11:40~11:55 総合討論

11:55~12:00 開会挨拶

農研機構野菜花き研究部門 野菜花き育種基盤研究領域長
間 竜太郎